# 編集後記

令和２年度一番の出来事といえば小池薫新院長体制になったことが挙げられます。あとは残念ですが、コロナに始まり、コロナに終わった一年でした。アニュアルレポートの役割として、京都医療センターでのコロナとの戦いの一年を、ここに記載しておきます。

令和２年　２月１７日　　第１回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催
令和２年　２月１７日　　帰国者接触者外来を設置
令和２年　４月　３日　　新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを表明
令和２年　４月１５日　　感染症内科、感染症救急科、感染症内科病棟、感染症救急科病棟立ち上げ
　　新型コロナウイルス感染症患者受け入れ開始
令和２年１２月１７日　　地域連携室で新型コロナウイルス抗体検査を開始
令和２年１２月２１日　　新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病棟を拡大
令和３年　２月１９日　　新型コロナウイルスワクチン先行接種開始

新型コロナ感染症対策本部会議開催数　　63回
新型コロナウイルス感染症入院患者数　　123名
　　内　死亡退院　　14名

大変な一年でしたが、悪いことばかりではありませんでした。医療連携フォーラムをWeb配信できる技術を獲得した一年でもありました。

令和２年　７月　４日 第14回　“がん治療最前線”三本の矢　～京都医療センターの挑戦～
令和２年１１月２８日 第15回　京都医療センターの救急・新たなスタート
令和３年　３月２７日 第15回　新体制で一歩前へ　消化器内科＆脳神経内科
と、3回の京都医療センター医療連携フォーラムをWeb開催しました。

さて、平成２３年度から再開したこのアニュアルレポートですが、令和２年度版で10年目となりました。当院の日々の活動を年次でまとめることは、単に外部への情報発信のためだけではなく、院内にあっても病院一丸となっての努力の歩みを個々の職員が改めて認識することで当院のさらなる発展につながると考えています。これからも広報委員会としてアニュアルレポートを毎年発刊することを通じて、京都医療センターの一層の発展とひいては地域への医療の貢献に役立てれば甚だ幸いです。

広報委員会委員長
地域医療部長
瀬田　公一